

福井大学の理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的でかつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを目的としています。

このような理念を踏まえ、福井大学では、次の4点を長期目標として、教育、研究及び社会貢献などを推進します。

長期目標

1. 福井大学は、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。

福井大学は、国際的な水準の教育を実施し、学生一人ひとりを徹底的に鍛えます。また、学生、教員が共に自己研鑽できる環境を提供し、学生の人間としての成長を積極的に支えることにより、高度な専門性と豊かな社会性を有し、21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材を育成・輩出します。

2. 福井大学は、教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに、本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。

福井大学は、教育・医学・工学の分野において、地域で唯一又は最高の教育・研究機関として、教員一人ひとりの自由で創造的な研究を尊重するとともに、伝統や地域特性を活かした研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。

3. 福井大学は、優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。

福井大学は、教育を通じた豊かな社会づくりの担い手となる人材の育成、研究を通じた新たな知の獲得や産学官民連携による技術力・社会基盤の強化、また、高度医療の提供や医療人の育成等を通じて、地域社会の発展をリードし、次代の地域社会や国際社会も視野に入れた豊かな社会づくりに貢献します。

4. 福井大学は、ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し、社会から頼りにされる元気な大学になります。

福井大学は、学生・教職員が生き生きと教育・研究・社会貢献に取り組み、その成果を発信できる組織・体制を構築します。同時に、適正な評価に基づいて大学を運営することで社会から付託された大学の使命に対する説明責任を果たし、個性を輝かせ、社会から頼りにされる元気な大学になります。



★福井大学にはどんな研究をしている先生がいるの？

大学のHPから、福井大学に所属している研究者(教員)情報を検索できます。
<http://www.u-fukui.ac.jp/>

福井大学HP右下部の「教育研究者検索」をクリック！

所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。ぜひご利用下さい。

●大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せください。

福井大学広報センター
 〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号



[メールはコチラ]



(1) 地域を支える優れた人材の輩出

■教育地域科学部 ～地域の次世代を育てる教員の養成～

- 福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,686人
- うち本学の卒業生数 3,262人

■医学部 ～地域医療を担う医療人の養成～

- 福井県の医師数 1,922人
- うち本学の卒業生数 562人
- 看護学科では県内で唯一助産師を養成

■工学部 ～地域産業を創造する技術者の養成～

- 福井県のエンジニア、科学者 12,371人
- うち本学の卒業生数 4,684人



※福井県のデータは、教:平成22年度学校基本調査、医:平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査、工:平成17年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、いずれも平成22年度時点の同窓会データより。

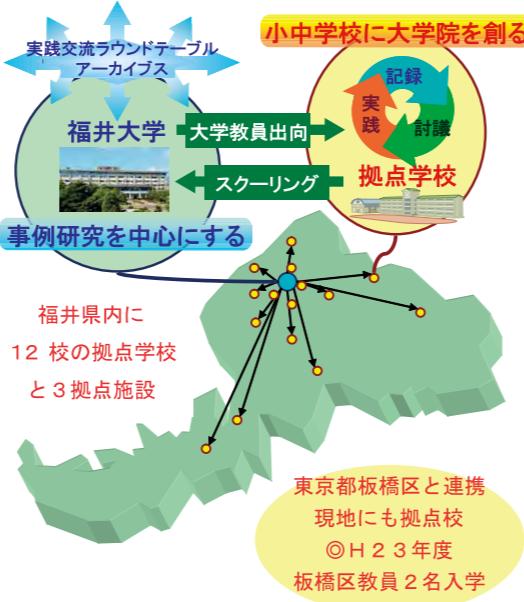
(2) 実践力重視の教員養成教育

■「福井大学方式」:学校現場が大学院

- 小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に
- 米国、フィンランド、中国、韓国との国際共同研究を展開

■中央教育審議会答申（2012.8.28）

大学における従来の教員養成を抜本的に改革し、「福井大学方式」と呼ばれる、学校を拠点にした全国規模での教師教育の革新を実現するための取組を進めており、2012.8.28 の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」においても教員養成のモデルとして紹介された。

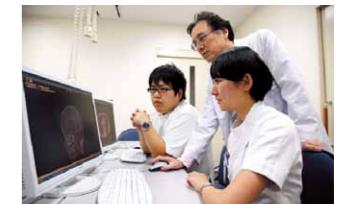


(3) 高度な臨床能力を備えた医療人の育成

■革新的画像医学教育：高度化が進む画像診断で医師の「診る」を支える

- 人体解剖画像、病理組織画像に加え、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、統合的に登録できる医学画像教育専用サーバーを整備

- 臨床基礎科目および臨床実習の場で利用され、高度化・精緻化する画像診断を、充分に活用できる医師を養成



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成



看護実習

- 幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）が出来る独自カリキュラムを実施。県内で唯一助産師を育成
- 社会のニーズに対応した「がん看護学」や「災害看護学」を導入

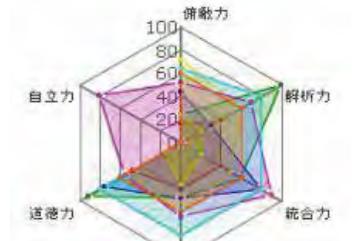
■平成25年4月 大学院医学系研究科博士課程を改組

- 医科学専攻・先端応用医学専攻を統合し「統合先進医学専攻」を開設
- 全国初となる「地域総合医療学コース」を新設し、質の高い総合診療医・救急医・家庭医養成

(4) 実践的能力を備えた技術者の養成

■充実した学士力を身につける初年次教育プログラムの実施

- グループワークでジェネリック・スキル（汎用的能力）向上
- JIBUNポートフォリオで自己教育・就職活動サポート
- 先輩セミナーにより職業観を形成・勉学意欲高揚
- 高大連携で専門科目へ滑らかに接続



■夢を形にする技術者育成プログラムの実施

- 学科や学年を越えた学生主体の創成活動



福井大学フォーミュラ製作プロジェクト
(機械工学科 他)

■平成25年4月 大学院工学研究科博士課程を改組

- 前期課程：ファイバーアメニティ工学専攻を「繊維先端工学専攻」に改組。入学定員を拡充
- 後期課程：4専攻を統合し「総合創成工学専攻」を開設。専門化・学際化の統一



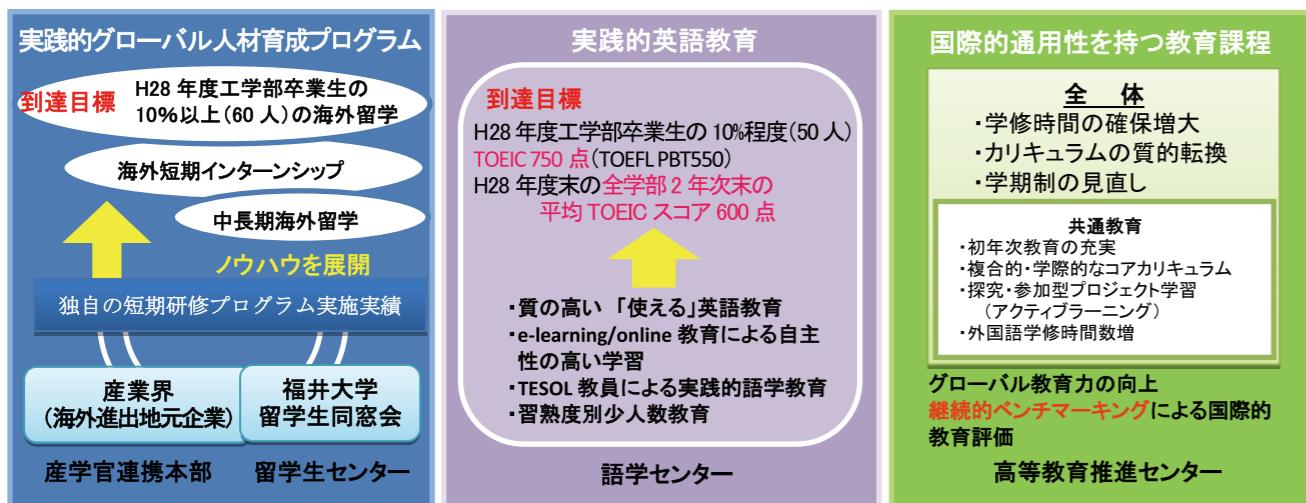
※福井大学企業アンケート（抜粋）
対象：平成20.4～平成22.3に卒業
有効回答数：191社

(5) グローバル人材育成の国際化拠点校に採択

■平成24年度 文部科学省 グローバル人材育成推進プログラムに採択

(東海北陸地区の国立大学では本学のみ)

- 21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる人材を育成し、地域のグローバル化にも対応



(6) 就職率 国立大学1位を獲得*

■卒業生が1,000人以上の大学

(平成23年度実績)

- 就職率 95.8% 国立大学1位
- 全ての国公私立大学の中でも1位

■複数学部を有する国立大学では5年連続1位を獲得



- H19年度 95.3%
- H20年度 97.2%
- H21年度 94.3%
- H22年度 94.7%

福井大学の取組が全国でも注目され、出版社から刊行！

全国240大学 就職率ランキング (卒業生数1,000人以上)

順位	区分	大学(所在地)	卒業生数	就職者数	大学院進学者数	10就職率	11就職率	12就職率
1	国立	福井大学(福井)	1,288	943	304	94.3	94.7	95.8
2	国立	九州工業大学(福岡)	1,701	1,044	606	93.9	90.5	95.3
3	私立	国際医療福祉大学(新木)	1,189	1,110	10	96.2	94.2	94.1
4	国立	名古屋大学(愛知)	3,921	2,335	1,424	90.1	93.0	93.5
5	国立	岐阜大学(岐阜)	1,288	802	427	91.3	93.1	93.1
6	国立	東京工業大学(東京)	2,831	1,454	1,252	91.3	92.3	92.1
7	私立	金沢工業大学(石川)	1,686	1,390	172	89.0	89.2	91.8
8	私立	芝浦工業大学(東京)	2,101	1,434	506	89.8	90.1	89.9
9	国立	三重大学(三重)	1,400	886	409	–	90.3	89.4
10	国立	宇都宮大学(新木)	1,452	1,022	299	86.0	86.4	88.6

*卒業生1000人以上の大学、「–」はデータがないことや算出できないことを示す
サンダー毎日 2012年7月29日号「全国240大学 就職率ランキング」より



*全国平均に比べ非常に低い離職率

(1) 地域特性を活かした世界的水準の研究

■高エネルギー医学研究センター

- 医学、薬学、工学を融合し、生体画像診断、分子イメージング、新薬研究、高次脳機能研究等を通じて医療の向上と社会貢献を目指す



PET薬剤(放射性薬剤) 製造用
「サイクロトロン」



■最先端の臨床医学への応用

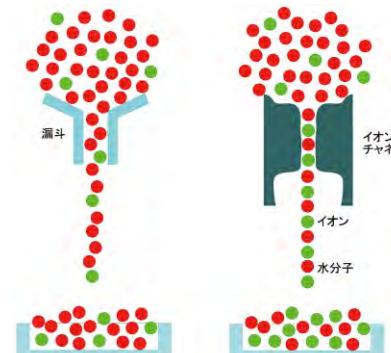
- PETを用い、子宮筋腫と悪性度の高い子宮肉腫を、高い確率で画像診断できる方法を世界で初めて開発



(2) 特色ある研究の取り組み①

■医学部

- 薬品と結びついて効果を発揮する細胞の「受容体」の研究：
尿道を制御する新たな受容体を発見。排尿障害の新薬開発が進み
新薬開発に貢献



イオンチャネルの研究：
水分子とイオンの交互通過を世界初発見

- 細胞膜のたんぱく質分子「イオンチャネル」の研究：

イオンが細胞膜を通過する際、水分子と交互に通過していることを世界で初めて発見。不整脈や糖尿病などの新薬・治療法開発の可能性に期待



■遠赤外領域開発研究センター：遠赤外領域研究の世界的拠点

- 遠赤外領域における電磁波発生器「ジャイロトロン」を独自開発
- 世界最高周波数(1テラヘルツ超え)を実証し、文部科学大臣表彰受賞



電磁波発生装置
「ジャイロトロン」

(3) 特色ある研究の取り組み②

■工学研究科

グリーンイノベーションの推進

○液体窒素冷却高温超電導モータの開発



第4回福井県
科学学術大賞
受賞(H21.2.7)

○リチウムイオン電池の開発

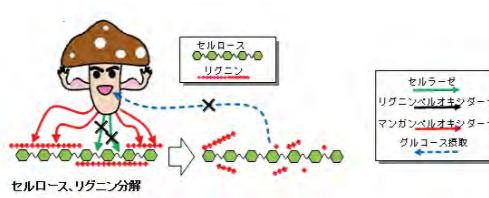
リチウムイオン電池で航行する電動船



第5回福井県
科学学術大賞
受賞(H22.2.7)

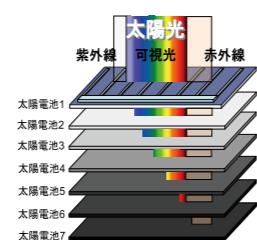
○バイオマス

白色腐朽菌を用いて、第2世代バイオ燃料の生産を効率化



○次世代高効率太陽電池の研究開発

窒化物タンデム太陽電池を世界初提案



タンデム型太陽電池
とは？

利用波長の異なる太陽電池を複数積み重ねたもの

(4) 「福井方式」による地元産業界との連携

■産学官連携本部

○「福井大学産学官連携本部協力会」

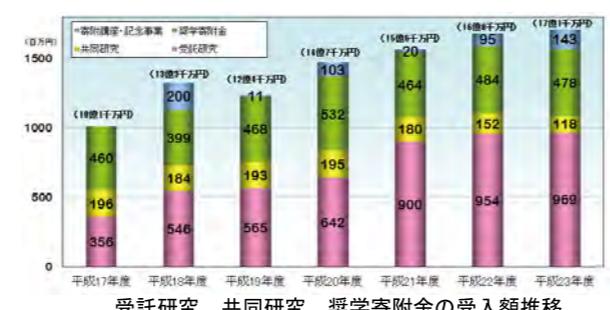
約200の企業・機関から支援を戴いて産学官連携活動を展開

○「創業型実践大学院教育」「実践道場」

産業現場で活躍できる人材を産業界とともに育成

○「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の機器を多数設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進



ふくい産学官共同研究拠点の最先端機器

■地元産業界との“福井方式”による産学官連携・共同研究プロジェクトを推進

※“福井方式”とは、大学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式

(5) 附属国際原子力工学研究所敦賀移転

■日本・世界の原子力の安全・安心への貢献を目指して

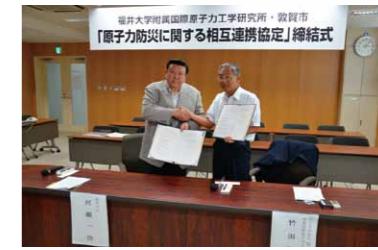
○平成24年3月附属国際原子力工学研究所が敦賀市に移転し、「敦賀キャンパス」を開設

○原子力研究のより一層の充実、また原子力発電所立地地域の安全・防災危機管理の向上に努めるため、部門を再編

○「研究」「人材育成」「連携・拠点化」をキーワードに地域のポテンシャルを活かした活動を展開し、日本および世界の原子力の安全・安心への貢献を目指す



附属国際原子力工学研究所



敦賀市と原子力防災に関する相互連携協定を締結(24.6.27)

附属国際原子力工学研究所組織図(2012.4.1)



(6) 大学院連合小児発達学研究科に参加

■ALL JAPANの教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明へ

○大阪大学・金沢大学・浜松医科大学による連合小児発達学研究科に、平成24年度より千葉大学とともに新たに参加。5大学によるALLJAPAN体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組む

連合小児発達学研究科

こころの発達神経科学講座
(大阪大学)

こころの相互認知科学講座
(金沢大学)

こころの発達健康科学講座
(浜松医科大学)

平成24年度から参加

こころの形成発達科学講座 (福井大学)

『子どものこころを健やかに育ててはぐくむ』
うつ病への取り組み

情動認知発達学領域・発達環境支援学領域・脳機能発達学領域

学内関連機関 子どものこころの発達研究センター
新しい研究領域を創生し、革新的教育研究事業を展開

附属病院「子どものこころ診療部」
発達障がいを始めとした「子どものこころのひづみ」を解明することにより、こころの危機的状況にある子どもを救出・支援

こころの認知行動科学講座
(千葉大学)

(1) 最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

- 「最後の砦」として最重症疾患患者を受入



全ての患者を受入
“地域医療の最後の砦”として迅速に対応

■大学病院初の北米型（ER）救急体制

- 一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を実践するため、365日24時間の受入態勢を確立



ベテラン看護師とペアを組む若手

■パートナーシップ・ナーシング・システム

- 入院患者1人に対し看護師2人が担当する独自制度により、安心・安全度が向上し、より質の高い看護を提供



総合周産期母子医療センター開設式

■総合周産期母子医療センター（平成24年8月1日開設）

- 母胎・胎児集中治療管理室（MFICU） 3床
- 新生児集中治療管理室（NICU） 6床
- 新生児回復期治療室（GCU） 6床
- 産科・小児科医師の連携により、リスクの高い妊婦や新生児を受入

(2) 地域医療の担い手の育成

■「緊急被ばくに強い救急総合医養成」プログラム

- …地域のニーズに即した医療人の育成

- 日常のあらゆる疾患を診療できる「総合医」
- 救急診療に関わる初期対応能力を備えた「ER型救急医」
- 有事に貢献できる「緊急被ばく医療専門医」

東日本大震災時に、受講生が現地に赴いてプログラムの成果を発揮し、現在も貢献中であることが、文部科学省に高く評価され、中間評価で唯一の最高ランクのS評価を獲得



在宅診療を行う医師と研修医

■地域プライマリケア講座（福井県高浜町からの寄附講座）

- …「医師は地域が育て、守る」

- 和田診療所、高浜病院にて学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成

(3) “健康長寿ふくい”のために

■福井県からの寄附講座「地域医療推進講座」設置

- 医師不足地域への新たな医師派遣システムの構築



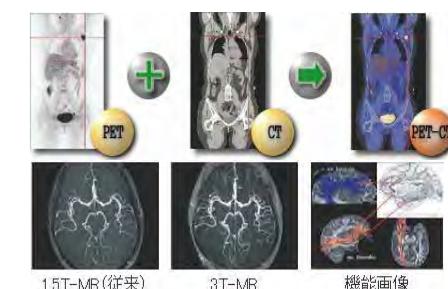
TV会議システムを利用した医療支援

■医師派遣

- 福井県内唯一の医学部として、県内を中心して161の医療機関に医師を派遣

■産婦人科医が不足している地域の分娩を支援

- 分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため、設備を整備し分娩を受入
- …自治体から大学へ寄付の条件を緩和する法改正に繋がるモデル的ケースに



専門ドック「先端医療があなたの命を守る」

■僻地医療を遠隔診断により支援

- TV会議システム、遠隔病理診断及び遠隔画像診断による支援

■先端医療画像センター

- 最新の3テスラMRI装置やPET-CT装置を運用

(4) 医学部附属病院再整備が始動

■優れた地域医療人を輩出するハイクオリティーメディカルセンター

- 平成24年3月から新病棟の建設を開始

- 「揺るぎ無き地域診療拠点の構築」

- 「実践重視型教育環境の充実」

- 「福井ブランドの先進医療の開発・実践」

- 「快適・安全な医療空間の提供」

- 「堅固な経営基盤の構築」

- の5つの柱に沿って各施設を再編

- 平成26年9月開院予定

- 消化器や呼吸器など臓器・疾患別にセンターを開設し、治療の効率化を図る



イメージ図：救急前ピロティ



イメージ図：集中治療部

4. 国際貢献 ~ 国境を越えて国際社会に貢献 ~

■東アフリカへの国際医学教育・医療支援

- 東アフリカに、広島大学・九州大学と協力して「東アフリカ外傷医学国際教育協力センター」設置
- 共同研究の推進や、国際協力機構（JICA）からの要請を受け、福井大学へ現地医師を受入

○福井大学で2年学んだ現地医師の言葉

（ウガンダ マケレレ大学医学部勤務）

「以前は、脊椎の手術で問題のある背骨を取り除くしか知らなかった。痛みがひどく、まひが残ることもあったが、今は背骨を残して神経だけを抜く方法を身につけた。患者の負担が改善され、誇りに思っている。」



医学教育アフリカ支援国際セミナー

■UAEプロジェクト：乾燥地帯に潤いを

- 高温・乾燥地のUAE（アラブ首長国連邦）における植物栽培のため、水分保持に優れているポリマーを使った吸水性繊維物を開発。芝生緑化や果物等の節水栽培を可能に
- 土壤から水分蒸発を抑える技術の開発・研究



UAEでの実験の様子

5. 評価 ~ 福井大学の実力 ~

第1期中期目標期間評価 地方総合大学1位

■福井大学の教育・研究・社会連携・国際交流・業務運営に対して高い評価を獲得

全国86国立大学の中で総合7位

国立大学評価委員会（文部科学省）が
公表する基準による評価ランキング

順位	大学名	総合評価 ウエイト
1	奈良先端科学技術大学院	71.00
2	滋賀医科	64.75
3	浜松医科	60.64
4	お茶の水女子	59.93
5	東京工業	59.76
6	東京	58.96
7	福井	56.24
8	東京外国語	56.00
9	東京医科歯科	55.43
10	京都	53.96

地方総合大学中1位
北信越ブロック1位

項目別評価点

	教育	研究	達成状況	業務運営	総合評価
福井大学	8.58	3.50	4.00	6.00	56.24
86大学平均	6.14	2.80	3.49	5.93	45.65

※総合評価=(教育+研究)×3+(達成状況+業務運営)×2

※福井大学事務局調べ

6. 開かれた大学 ~ 大学から社会へ ~

■福井大学きてみてフェア

- 大学の教育や研究について、体験しながら学ぶコーナーや学生の授業発表などを通して、広く地域の方々に紹介



キャンパスツアー



福井豪雨映像アーカイブス展



「日本一短い手紙」と
「かまぼこ板の絵」の
物語コラボ展

■展示企画

- 学生、教員、公共施設との連携のもと、図書館所蔵資料などの展示公開



調査団を派遣



スクリーニング活動



Jヴィレッジ内での訓練の風景

7. 東日本大震災復旧・復興支援

■学長をトップに大学を挙げた支援の実施

- 平成23年5月に、東日本大震災の復旧復興を大学を挙げて支援するため、学長を団長とする計14名の調査団を派遣
- 震災直後から行っている「原子力分野における専門家派遣」「緊急被ばく医療・災害看護支援」等の継続実施を決定

■緊急被ばく医療専門家の活躍

- 緊急被ばくの専門家を現地に派遣し、福島第一原発内やJヴィレッジ内での被ばく医療に係る活動においては、本学で緊急被ばくを学んだ福井県の救急医が中心となり活躍

■その他の主な支援

- スクリーニング活動
- 水産物の放射線物質測定支援
- 福島県立医科大学心のケアチームへの協力
- DMAT（災害医療派遣チーム）